

## JAL は負の歴史を繰り返してはならない！

昨年 12 月 22 日、JAL は国土交通省から整備問題で「業務改善勧告」を受けた。1 月 2 日には羽田空港滑走路上で海保機と JAL 機が衝突する事故が発生し、海保機の搭乗者 5 名が亡くなった。JAL では、昨年来、滑走路への誤侵入などの「安全上のトラブル」が相次ぎ、結果、5 月 27 日に国交省から「嚴重注意」を受け、6 月 11 日に JAL は「再発防止策」を提出した。

2010 年の経営破綻により全社員の 1/3 にあたる約 16,000 人の社員が退職を余儀なくされ、その上、人員削減目標を超過達成したにもかかわらずパイロットと客室乗務員 165 名の解雇が強行された。私たち被解雇者や退職した社員の多くは、長年の現場経験を積んでおり、ニューデリー、モスクワ、アンカレッジ、クアラルンプール、羽田沖、御巢鷹山などの人身事故や、安全上のトラブルを数々経験してきた。

今回の「再発防止策」は具体性に欠けるだけでなく、安全の“要”と言うべき現場の実態に目を背けたものであり、再発防止策には程遠い。今日の状況に至った要因について、以下の点を指摘する。

1. 経営破綻の直前、2009 年 12 月に日本航空の「安全アドバイザーグループ」が「新提言書：守れ、安全の砦」で「財務状態が悪化した時こそ、安全への取り組みを強化するくらいの意識を持って『安全の層』を厚くすることに精力を注がなければならない」と役員や社員に呼びかけた。この提言が、再建以降、悉く無視されてきた。
2. 経営再建後に策定された“利益なくして安全なし”の「JAL グループ企業理念」の下、“一人ひとりが経営者”や“売上げ最大、経費を最小”などの意識転換が社員に求められた。「安全アドバイザーグループ」が「新提言書」で指摘した“組織の文化”や“安全の層”などの提言は、新たな経営理念により大きく方針転換されてきた。この社員への意識転換が、一人ひとりの安全意識にどのような影響を与えたのか検証されていない。
3. 「新提言書」では、「社員の活気や意欲、自由な創造性、自由にものを言える職場、業務のあり方や将来について議論する機会のある職場などは、すべて安全の基盤である」と指摘している。日本航空は 6 月 11 日の再発防止策で「経営による現場実態の把握」を課題としてあげているが、現状はものを言える職場となっていない。その原因が明らかにされていない。

4. 「新提言書」では、「ベテランの社員が体に染みつかせた技量やノウハウは無形の財産」であり、「次の世代に継承していくには、職場における人間同士の日常的な生身の接触が重要」と指摘している。ベテラン社員の大量退職や整理解雇によるモノ言う労働者の排除が職場に与えた影響についての分析が欠けている。
5. 羽田衝突事故や滑走路誤侵入、機体の接触などに至った原因に“コミュニケーション不足”は否定できない。機長と副操縦士間に権威勾配は無かったか？客室乗務員や地上の職場で「自由にモノが言える職場風土」が確立しているか？その要因となる昇格差別や不利益扱いについての検証が見られない。
6. 安全の4要素として確立している「知識、技術、経験、チームワーク」の中で、現在、日本航空の安全憲章は「経験、チームワーク」の言及が一切なく、「知識、技術、能力の限りを尽くす」と定めている。経営破綻時に「年齢の高い者、病欠勤歴のある者は将来の貢献度が低い」として大量のベテラン社員を退職に追い込み、そして165名の解雇を強行した。破綻以降、「経験、チームワーク」が排除され、「能力の限りを尽くす」という精神論に置き換えられている。

6月11日に示されたJALの安全対策は“安全管理システムの総点検”、“経営トップの安全に対する意識の再徹底”、“高い緊張感”、“立ち止まる環境”などの内容で、現場の抱える諸問題（人手不足、中途退職、高稼働、経験軽視、コミュニケーション問題など）に関する対策はなく、謂わば「精神論」が中心となっている。

経営がいくらリーダーシップを執っても、方針が誤っていれば真の安全対策にはならない。これは事故が連続したJALの歴史の教訓であった。

昨今、航空需要が旺盛になってきている。一方、円安・ドル高の影響に加えて燃料不足の問題が惹起されている。私たちの入社時期はオイルショックの時期であった。当時、運航の大原則であった「安全性」「定時性」「快適性」に「経済性」が加わり、燃料削減が声高に叫ばれてきた。数々の死亡事故に至る環境を肌で感じてきたのは、私たち被解雇者である。「利益なくして安全なしの理念」(JALフィロソフィ)を捨て、「安全なくして利益なし」への理念の転換を求める。日本航空は“負の歴史”を繰り返してはならない。

2024年8月1日 JAL被解雇者労働組合 (JHU)